

神経ブロック療法と比較した鍼灸療法の適応と効果

大阪医科大学麻酔科ペインクリニック

河内 明、玉川 徹、佐子幸男、平井清子、
橋本佐和子、王 財源、松尾征男、
北出利勝、森川和春、稲森耕平、森 秀磨

われわれのペインクリニックでは、神経ブロック（以下、ブロック）に東洋医学を取り入れた治療法を行ってきた。その目標は、この両者をうまく使い分け、かつ組み合わせる事によって治療効果を向上させることにある。この課題の追求過程で、ブロックと鍼灸療法とで同一疾患においてどのような効果の差があるか等、そのデータが得られているので、これに基づいた両者の効果比較について紹介する。

I. ブロックと鍼灸療法との効果比較（遠隔成績）

表1は、各種疼痛性疾患に対するブロックと鍼灸療法の改善率（著効、有効）を比較検討したものである。ブロックは「ブロックのみ」あるいは「ブロックを主体」として治療した症例群、治療は「鍼灸療法のみ」あるいは「鍼灸療法を主体」として治療した症例群である。以下にその要点を概説する。

表1 各種疼痛性疾患に対するブロックと鍼灸療法との効果比較

	著効+有効 / 全症例	改善率
頭痛	ブロック 38/51 例	74% } p<0.1
	ハリ 15/28 例	
頸痛	ブロック 35/48 例	73% } p<0.01
	ハリ 13/31 例	
外傷性 頸部症候群	ブロック 27/48 例	56%
	ハリ 93/161例	58%
頸肩凝り	ブロック 3/10 例	30%
	ハリ 23/41 例	56%
五十肩	ブロック 31/41 例	75%
	ハリ 11/20 例	55%
腰痛	ブロック 64/95 例	67% } p<0.05
	ハリ 77/150例	
膝痛	ブロック 22/35 例	63%
	ハリ 9/21 例	42%
ヘルペス後 神経痛	ブロック 57/94 例	61% } p<0.05
	ハリ 5/18 例	

（遠隔成績において著明な改善を認めた症例数）

【頭痛】

頭痛には、ブロックの方がよく効くように見える。しかし、この中から慢性の頭痛について比較したところ、鍼灸療法の方が良い傾向がみられた。

【外傷性頸部症候群（むちうち症）】

外傷性頸部症候群には、鍼灸療法が非常に効果的である。むちうち症の急性期には星状神経節ブロックなどの各種神経ブロックが良い適応になることが多い。したがって、急性期にはブロック主体、慢性期に移行するにつれ、鍼灸療法を併用するといった治療法を行うことが望ましい。

【頸・肩のこり】

肩こりのブロックとしては、星状神経節ブロック、第4頸神経ブロックといったものが考えられるが、単なる肩こりにはそういったブロック療法をあまり適用できない。しかし、「肩井」穴のトリガーポイントの局注はよく効くので、ひどい肩こりに（鍼灸と）併用すると効果があがる。

【腰痛】

発病6ヵ月以上という慢性腰痛に対しては、ブロックが特に効果的であった。しかし、急性または亜急性腰痛についていうならば、鍼灸療法が劣っていることは決してなかった。

【帯状疱疹】

PHN（発病来1ヵ月以上）にブロックを行うと61%の改善率が得られた。しかし、ブロックを一切行わず、鍼灸療法で治療したところ、その遠隔成績は27%と非常に低かった。